

山行NO NO. 1757
日時 2017. 10. 04 (水) ~ 06 (金)
山域 群馬・戸神山 (771m)、谷川岳馬蹄形縦走 (白毛門1720m、朝日岳1945m、茂倉岳1978m、谷川岳1977m)
参加者 GT, KH, MM, GM, HT = 5名

04日 (水) 晴 戸神山

コース 長泉9:00 - 東名 - 圏央道 - 関越 - 沼田IC - 戸神神社発12:07 - 戸神山12:49 ~ 13:00 - 神社13:35 - 水上IC - 谷川岳BP (ベースプラザ) 15:00 (泊)

標高差 上り 戸神神社約450m ~ 戸神山771m = 約321m
下り

やっと上れた戸神山

予定より3H遅れで長泉発。私が計画変更を2名に知らせ忘れたからだ。それでも登山口の戸神神社には、12時過ぎに到着した。天気は良く暑いくらいだった。登山口の寺脇の駐車場に車を置き出発。しばらく林道を進み、やがて登山道。上るに従って岩混じりの急登になる。



関越道から戸神山

この山は、関越道から良く見える。毎度、関越道を通るたびに目立つ山で、昔から上りたいと気になっていた。岩道をグングン上る。上るに従って関越道の車の音が聞こえた。1時間掛からないで頂上だった。正面に武尊山が大きかった。

頂上の北側は雲が多く、小雨がパラパラ。気温も急激に下がった。軽装の登山者が一人上って来た。少し食べて飲んで、早々に下山。下れば温かくなった。下山は途中から、林道コースに行く。オバサマ方が3名やって来た。駐車場に着いたら、これから上るご婦人が3名。なかなか人気の山らしい。

再び車の人となり、水上ICから谷川岳BPに入る。17時以降は無料という。2日分、10000を支払った。係りが帰るまで土産物屋ベンチで一杯やった。帰った時間を見計らって駐車場にジャンボエスペースを張って夕食。今日は平日だから駐車場に入れたが、今後は、紅葉シーズンで入れないそうだ。

05日(木)晴

コース 起床4:00-白毛門登山口発5:11-松ノ木沢の頭7:18-白毛門8:12-笠ヶ岳9:16-朝日岳10:38-清水峠12:44-七ツ小屋山13:59-蓬ヒュッテ14:45(泊)

標高差 白毛門登山口約690m~白毛門1720m=約1030m

霧氷・紅葉・緑、三段染めの山

昨夜は大雨で駐車場は雨音が響いていた。今日、晴れなかったら他に転戦も考えた。しかし、朝方外を覗くと南方は星が光っていた。本日は長いコースだから、雨だけは避けたかった。

手早く朝食を済ませ、車で白毛門登山口に下りた。駐車場は車が数台。ヘッドンで出発。物凄い急登に行く。すぐ暑くなった。白毛門まで兎に角、急な上り。休むとイヤになるので、松ノ木沢の頭まで頑張った。お蔭で女性軍からブーイングだった。



岩場



松ノ木沢の頭から白毛門

更に急登をこなし白毛門頂上。頂上にはピッケルが埋め込まれていた。天気はまあまあだった。朝掛かっていた、谷川岳のガスも取れ、一の倉沢の全貌が遠望された。改めて凄い山と思った。2kmも満たない山なのに。笠ヶ岳に向かう。この辺りは紅葉が見事だった。更に、昨夜の雨が雪・霧氷となり、頂稜

部は真っ白、中間部は紅葉、下部は緑の、いわゆる「三段染め」だった。一同、痛く感動・感激・感動だった。



手前が笠ヶ岳



谷川岳遠望



霧氷・シュカブラ



笠ヶ岳を経て、朝日岳上りに掛かる。霧氷・シュカブラが見事だった。シュカブラを食べる。無味・無臭。味はないが、乾いた喉に「美味しかった」。朝日岳に着いた。見事な展望だった。北に尖がった越後駒、右に会津駒、その南に平ヶ岳、燧ヶ岳。西に巻機山があった。風があったので少し下って池塘で休憩。以前、ナルミズ沢をやったことがあるが、沢の詰めはここだった。が、全く記憶になかった。

朝日の上りで男女2名に会った。天気が悪く茂倉岳と清水峠に泊まったという。女性は元気な方だった。馬蹄形縦走を随分と強調していた。



朝日岳

皆と合流し朝日岳から清水峠に下る。最初は、雪が積もった木道で神経を使った。やがて、ザレたトラバースの道が続き結構悪い。右手は数百mの崖で落ちれば助からない。集中して下った。ジャンクションピークに道標があった。

道標は、巻機山を指していた。少し覗くと、熊笹が酷く、とても歩ける道でなかった。エアリアマップも、赤線は描かれていない。山レコも、殆ど5～6月の残雪期の記録のみだった。ところが、山日記を何げなく眺めていたら、驚くべき記録があった。何と、1974年8月2日～5日、自身が巻機山～白毛門まで歩いていた。しかし、まったく記憶がない。調べてみた。同行者はO（オー）。

8/2 上野発 22:13～六日町 3:34（泊）

/3 清水集落 7:00～米子沢 7:30～稜線 13:55～巻機山 14:05
巻機山と米子頭山のコル 15:25（テン泊）

/4 起床 6:00～米子頭山 7:30～柄沢山 9:05～朝日岳 14:40（テン泊）

/5 起床 4:00～笠ヶ岳 6:40～白毛門 7:25～土合 9:07～上野 11:50

1974年といえば、今から43年前。記録を見る限り、当時は夏でも歩けた記録でした。しかし、くど

い様だが全く記憶はゼロだった。43年前では、無理もないが・・・。

途中、昨夜、蓬ヒュッテに泊まった新潟のツアー、12～3名に会った。前後の若いガイド以外はオバさま方だった。後に蓬ヒュッテで聞いた情報では、お客は新潟の方達、ガイドは現地・水上のガイドといった。逆コースの理由は、多分、ロープウェイが使えるからだろう。



朝日岳の池塘を眺める

やがて三角形の大きな建屋が見えると清水峠だった。立派な送電線もある。三角家屋はJR東日本の送電線監視小屋だった。登山用の避難小屋は、その脇に申し訳程度に建っていた。5～6名入れれば満杯。この避難小屋もJR東日本の所有だった。

そもそもJR東日本は、ネットによると、首都圏の90%の電力は自家発電という。つまり、東電がアウトでも電車は動く訳。清水峠の大きな送電線の電気は、首都圏に運ばれている。新潟の水力発電である。

セツ小屋山を目指す。上り返しがキツイ。ここで私がアクシデント。登山道に池塘があった。木道を歩いて池塘を渡るが、木道が池塘に消えているので、脇に足を置いたら、もろに池塘にハマった。足首まで池塘の泥炭に潜ってしまった。あああ、あと数分で蓬ヒュッテなのに!!!最悪であった。

ズボンを脱いで替えズボンを履き、登山靴を洗った。50年の登山人生で、こんなことは初めてだった。池塘は、「チト（池塘）、気をつけなければ」であった。



右下に蓬ヒュッテ

蓬ヒュッテに着いた。ここも数十年振りだった。1971年7月10日～11日（単独）と同年、11月20日～22日（芦安・清水と）以来だった。当然、当時の記憶は全くない。ヒュッテは、小さい小屋だった。二段式ベッドがあり、20名泊まれば一杯の感じ。

実は今回、前出の新潟のツアーが泊まって混むと言うので、予定を一日ズラした。お蔭で、一昨日・昨日と天気が悪かったが、回避できたし、ヒュッテも貸し切りで良かった。ヒュッテに着くなり小屋番は、「明日の水はあるか」と聞いた。「ない」と答えると、「先に水を汲みに行け」という。

往復25分の道のりらしい。ま、時間があつたので全員で向かった。土樽の道を15分程下ると、イイ水がガンガン流れていた。

また、傍らに4Lの大五郎のペットボトルが数本置いてあつた。小屋番は何も言わなかったが、全員でペットボトルを満タンにして小屋に運んだ。これに小屋番は大いに喜んだ。小屋主人は、高波菊男氏だった。あの有名な、吾策新道の高波吾策氏の孫にあたる方だった。ヒュッテは、苗場町の所有。家賃を払って営業。従って上がりは氏のもの。ただし、荷揚げは、全て人力。15kgを4時間掛けて揚げるそうだ。ビア＝600ーは安い。ほか、氏推薦の地酒「雪男」は、サッパリ系の日本酒で、6杯やってしまった。



高波喜菊男氏



氏とはいろいろ話した。小屋番はお客と話しではいけないことが二つあるという。一つは、野球の話・二つは政治の話。しかし、その夜、氏は何故かタブーを破り大いに語った。

また、小屋は労山割引が利いた。ただ、会員証を持参したのは、私とMだけだった。なお、500円割引だが、全国連盟からのバックマージンはゼロで、全て持ち出しとのことでした。大いに交流し喋った。氏から「ゴトウさん、もう寝ましょう」と促され床に就いた。今日は約10Hのロングランで、気持ちが高ぶり寝付けなかった。

夜半、小屋はゴォーを、風が唸りを上げていた。トイレに起きたら、外は深い霧だった。

06日(金) 晴・風強し

コース 起床4:30—蓬ヒュッテ発5:25—武能岳6:25—茂倉岳8:01—一の倉岳—ノゾキ8:51—谷川岳9:21—トマの耳9:39—肩の小屋9:50~10:10—西黒尾根—指導センター13:06—温泉「林屋旅館」—食事—長泉17:30ころ

標高差 上り 蓬ヒュッテ約1529m~茂倉岳1978m=約449m
下り 谷川岳1977m~指導センター約760m=約1217m

谷川岳の超自然現象に痺れた

簡単な朝食で出発。昨夜は暑くて寝つきはイマイチだった。小屋外は強風と霧。後で分かったがここは風の通り道だった。完全装備で行く。手袋も2枚だった。

武能岳に上る。今日はKに先導して貰った。登山道の笹が刈ってあり有難い。笹で結構、足が濡れるからだ。途中で草刈り機が置いてあった。これも小屋番の仕事だろうか。



草刈り機

風は相変わらず凄かった。特に茂倉岳のコルはぶっ飛ばされそうな風だった。コルは風の通り道だった。単独に一名会った。この上りで、GYの右足が攣ってしまった。帰静して分かったが、痙攣でなく、「軽い肉離れ」だったという。

私も今年スキーで左足を肉離れした。普通、肉離れは大きな衝撃で起こるが、厳しい上りでも、なるのかと思った。少し鍛錬を増やす必要があると思った。

一ノ倉岳に向かう。対岸の白毛門が近い。いよいよ、馬蹄形縦走も大詰めに近づいた。下ると「ノゾキ」。

一の倉沢を俯瞰する。上部は、恐ろしいくらいの岩壁だった。
上り切れば「オキの耳」で、谷川岳の呼称になっている。「トマの耳」通過し、肩の小屋に下る。
上空はモーレツな風らしく、パタゴニアみたいな風雲が流れる。



超現象



西黒尾根を下る

一同、痛く感心・感動し、いつまでも眺めた。肩の小屋で休憩。皆はココアを飲み、オデンを食べた。寒い時は、小屋が有難い。西黒尾根を下山。天神平からロープウェイの案もあったが、最後までキッチリ決めたい。

下り難い岩場を下る。無雪期、ここを下るのは珍しい。下るに従って風はなくなり暑くなって来た。厳剛新道からKが先行し、車を白毛門登山口から谷川岳BPまで、上げに行ってくれた。

長い長い下降でようやく車道に降りた。指導センターで靴を洗って終了。1981年、当時、M労山だったT電機大学生だった沼津のK君は、一ノ倉・烏帽子岩で懸垂に失敗し墜死。駆けつけた時は、土間でシュラフに入っていた。

車道には、一ちゃん、倉ちゃん愛称のミニバスが走っていた。谷川も変わったものだ。湯檜曾に下り、今回の馬蹄形縦走に大いに満足し、林屋温泉で汗を流した。

(了)



西黒尾根登山口